



ほけんだより 8月号

令和4年8月1日
かすみ台第二保育園
看護師 砂川 晴美

夏真っ盛り。今年の夏も新型コロナウイルスの感染対策をしながら過ごすこととなります。
感染症には新型コロナウイルスだけでなく、RSウイルス感染症、ヒトメタニューモウイルス感染症、流行性角結膜炎などいろいろな感染症があります。

感染予防をしながら、元気に暑い夏を乗り越えていきましょう。

It' s a hot summer and more people are getting the corona virus.

Let' s be careful to use good hygiene - wash hands, gargle and wear a mask in class.

現在発熱、咳、鼻水、目やになどの症状があるお子さんがいます。

感染は3つの要素で成立します。

- ① 感染源・・・感染した人、動物、昆虫、汚染された物や食品
- ② 感染経路・・・接触感染、飛沫感染、空気感染、経口感染
- ③ 感受性宿主・・・病原体に対して免疫を持っていない人、感染の可能性のある人

この3つの要素が重なったときに感染が成立します。

感染を広げないための予防策

- ① 手洗い、うがい、マスクの着用、
- ② 感染源をなくすための消毒
- ③ 感受性宿主の抵抗力を高めるためのワクチン接種や体力づくり

<RSウイルス感染症とは>

RSウイルスを原因とする病気で主な症状は発熱、咳、鼻水、咽頭痛、頭痛、倦怠感(元気がない等)など、風邪に似た症状です。

肺炎を起こすなど重症化することもあります。特に、生後6か月未満の乳児や低出生体重児、心疾患、肺疾患、免疫不全のある方の場合は、重症化しやすいとされているため注意が必要です。

感染力は強く、2歳までに、多くのお子さんがRSウイルスに感染すると言われており、どの年代でも再感染は起こりますが、一般的には、年長児以降は重症化することは少ないです。

<感染経路>

ウイルスを含むしぶき(飛沫)が患者のくしゃみや咳で空気中に放出され、それを吸い込む、あるいは手指を介して接触することにより感染します。

潜伏期間は2~7日(通常4~5日)とされています。

<受診・治療等>

小さなおこさんに風邪のような症状がみられ、熱が38度以上に上がる、呼吸が浅く早くなる、ゼイゼイと咳が続く、痰が詰まる、急にぐったりするなどの様子が見られたときは、早めに医療機関に受診をしましょう。

治療は特効薬がなく、対症療法がおこなわれます。基礎疾患のあるお子さんなどは日頃からかかりつけ医と良く相談し、助言を受けるようにしましょう。

<感染拡大の防止>

飛沫感染や接触感染であることを考慮して感染を広げない事が大切です。

手洗いなど手指衛生にきちんと取り組むことや、咳くしゃみをするときは、口と鼻をティッシュペーパーなどで覆うなど、周りの方への感染防止をこころ掛けてください。

※保育園では、職員も含め手指衛生の励行等、感染防止に努めています。新型コロナウイルス感染症なども含め発熱などの症状が消失しても咳症状が見られる場合など、感染防止の観点とともにお子さんの体調に配慮し、登園を見合わせることも検討して頂けるとありがたいです。

安心して安全な保育を提供できるように努めていきます。